

# 大豆特報 第1号

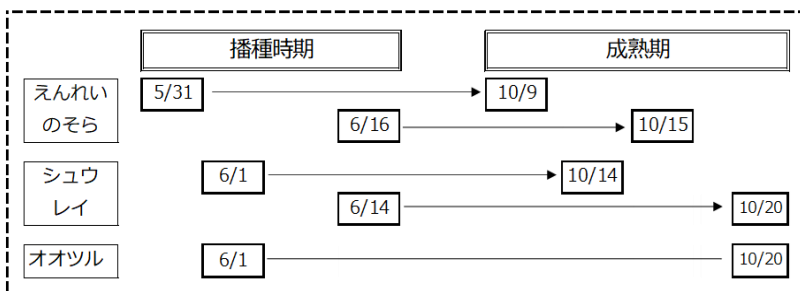
令和5年5月18日  
黒東地域農業技術者協議会

**排水対策の徹底と大豆栽培の履歴に応じた土づくりで、収量・品質の向上に努めましょう。**

さやせんじゆく

## 莢先熟株発生防止のポイント

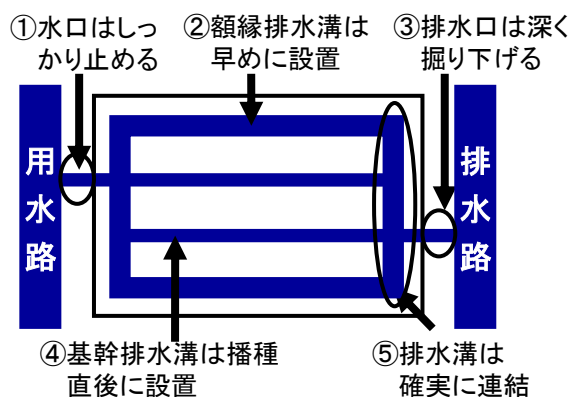
- 基肥量の減肥
  - 極端に早い播種を避ける
- ※右図を参照



適期収穫のための播種期の組み合わせ

## 1. 排水溝の設置

- ・水口はしっかりと止め、水が入らないようにしましょう。
- ・耕起前に深さ20cm程度の額縁排水溝を必ず設置しましょう。
- ・播種直後に基幹排水溝を設置し、排水溝や深く掘り下げた排水口と必ず連結しましょう。
- ・播種後も排水溝の点検・手直しをするなど、ほ場に水がたまらないようにしましょう。



## 2. 土づくりの実施

### ①有機物の施用

- ・大豆の作付回数が増加に伴い、地力が低下しています。収量・品質の向上を図るため、堆肥や発酵鶏ふん等の有機物を積極的に施用しましょう。

### 【有機物施用の目安】

資材名	散布量(10aあたり)
牛ふん堆肥	1t
発酵鶏ふん	150kg

### ②石灰質資材の施用

- ・近年、土壌pHが低下しています。大豆の生育に適した土壌pH6.0～6.5を目標に石灰質資材を施用し、生育量を確保しましょう。

### 【石灰質資材施用の目安】

資材名	散布量(10aあたり)
苦土石灰	100kg

## 3. 種子の準備

- ・種子は、「毎年」更新しましょう。
- ・茎疫病やフタスジヒメハムシ等の病虫害発生防止のため、種子消毒は必ず行いましょう。

薬剤名	使用液量	対象病虫害
クルーザーMAXX	乾燥種子10kg 当たり80ml	アブラムシ類、タネバエ、ネキリムシ類、フタスジヒメハムシ 茎疫病、紫斑病、黒根腐病、リゾクトニア根腐病、苗立枯病(ピシウム菌)

## 4. 播種作業

- ・耕起、碎土・整地、播種、作溝の一連の作業は1日で行い、ほ場が乾いている状態で碎土率を高めましょう。
- ・播種は、作業速度が速くなると欠株が多くなるので、0.5m/秒程度の速度（3連の播種機で、30aのほ場を70分程度）で、急がず確実に種子を落としましょう。
- ・畦立同時播種や排水溝の設置により湿害を防ぎ、出芽・苗立の安定化に努めましょう。
- ・播種深度は3cmを目安に播種機を調整し、種子が露出しないようにしましょう。

播種する際にできた作業溝は、基幹排水溝につなぎ、排水を促しましょう。



【播種量の目安】品種、播種時期に応じた目標の栽植本数を確保

品種名	播種時期	栽植本数(本/10a)	播種量<大粒>(kg/10a)
えんれいのそら	5月6半旬～6月上旬	14,000～16,000	5.3～6.0
	6月中旬	16,000～18,000	6.0～6.8
シュウレイ	5月6半旬～6月上旬	12,000～15,000	4.9～6.1
	6月中旬	15,000～18,000	6.1～7.4
オオツル	6月上旬	10,000～12,000	4.2～5.1
	6月中旬	12,000～14,000	5.1～5.9

※百粒重（大粒）：えんれいのそら：34.0g、シュウレイ：36.9g、オオツル：38.1g ※苗立率90%

※シュウレイやオオツルは、栽植本数が多くなりすぎると曇化（つるぼけ）や百粒重が低下しやすいので注意しましょう。

## 5. 基肥量の目安

- ・基肥は、土壌条件等に基づいて、適正な量を施用しましょう。
- ・昨年度、莢先熟が多発した地域では、基肥量を減肥するとともに、極端に早い播種は避けましょう。

肥料名	10a当たり施用量(kg)※	
	単作	麦跡
化成肥料オール14	17～22	30～35
BB基肥084	25～30	40～50

※施肥基準をR5より見直し

砂壤土地帯を中心にカリ成分が不足しています。そのようなところでは、「BB基肥084」を積極的に施用しましょう。

## 6. 除草剤の散布

- ・播種後、速やかに除草剤を散布し、雑草の発生を抑えましょう。

除草剤名	散布量	注意点
エコトップP乳剤	500ml/10a (希釈水量:100ℓ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・除草効果を高めるために、土壌の碎土率を高めましょう。</li> <li>・散布直後の多雨は薬害を生じる恐れがあるため、天候を見極めて散布しましょう。</li> </ul>
エコトップP細粒剤F	4～6kg/10a	